



## 1パーセントの可能性 を 実現させた想い

心  
あ  
っ  
た  
か  
ニ  
ュ  
ー  
ス

NMCAA  
NO3

唐沢寿明さん主演のドラマには、モデルが実在します。過疎化が進んでこのままでは消滅する限界集落を予算がない状態から活性化したスーパー公務員 高野誠鮮さんです。高野さんはまず、空いている家、農地を安く貸し出す制度を作ります。次にお米の直販を提案します。この地区は美味しいコシヒカリがとれる、このお米を神子原米として、売りだしていきます。が、協力してくれた農家は3軒だけ、最初の年はまったく売れなかつたそうです。しかし天皇陛下やアメリカ大統領、バチカンに宣伝にいきます。それでローマ法王への献上が成功すると、お米は一躍有名ブランドとなり売れるようになります。今度は農家に会社を作ってもらい、この農協を通さない会社の売り上げが、今では一億円を超えるそうです。現在は奇跡のリングゴの木村秋則さんとタックを組んで、自然栽培の塾を開いて若い農家さんを集めています。

肥料や農薬を普及してきた農協と、仲が悪いどころか協力体制でやっています。高野さんがやってきたこと、すべてがスムーズにいったわけではなく、内部からの反対も多かったそうです。高野さんの言葉にはハツとさせられます。私心無く、自分を失くすると物事は上手くいく。反対していた人も味方になってくれる。そしてどうすればできるか、それだけを考える。できない人はやらないからできないだけなんです。

### 良いことをメガホンで 叫ぶ実験は・・・

ニューヨークのユニオンスクエアに突如出現したスピーチ台には拡声器が設置されており、台の上には何か良いことを言おう」というプレートが貼られています。みんなのスピーチ内容です。「みんな元気？」 俺はここに居る赤いシャツを着た友人が大好きだ！」「そこの青い傘！好きな傘とつても素敵ね！好きよ！」「みんな大好き！」「みんな、いい1日を」「みんな大好きだ！ここに居る全員、みんな愛してる！イエス！」このプロジェクトは、美術館の展示の一環として

Tempore  
erywhere  
という団体が行ったもので人々に驚きや喜びを提供することが目的だそうです。スピーチしている人は笑顔で良いことを叫んでいるのが印象的です。もちろん、それを聞いている人も笑顔でした。良い言葉は周りも自分も笑顔にさせて、伝染していく楽しい実験ですね。

#### 編集後記

可能性があるんじゃないやなく、やれることを一生懸命やる。それがいいこと、みんなのためになることなら、必ず協力してくれる人、一緒にやってくれる仲間がでてくる。そして、やるなら、反対があっても、どんなに困難でも、やり続けることではないのか実現にはないただきました。